燦たり 四中 学校だより 磨き合う

17限目 2月21日(金)

残りの学生生活で みんなは何を身につける？

今、学校では、"8:05靴箱通過チャレンジ"、という取りくみで、時間を守ることにカを入れています。"なぜ、今？"、と思うかも知れませんが、時間を守る、というのは、基本で大事なことです。1年がおわろうとしている今、しっかりと身につけてほしいと思っています。今回は、身につけてほしいこととして、その昔、今の日本をつくってきた人たちが若い時に**何を学んで、何を身につけて大人になった**のか、という話を紹介します。3年生には最後のメッセージになりますが、PTA新聞に送る言葉をのせているので、そっちを読んでください者！

江戸時代のおわり頃、**吉田松陰**という人が、山口県の萩市で**松下村塾**という学校を開き、**わずか1年と1ヶ月**という短い間、79人の若者に、いろんなことを教えました。そして、その79人の中に、高杉晋作とか久坂玄瑞、桂小五郎(後の木戸孝允)、伊藤博文、山県有朋という人がいたんです。(聞いたことないかな？それぞれ有名な人たちです)

そして、なんと！その教え子の中から**明治維新後の総理大臣が2人**(ちなみに、伊藤博文が初代、山県有朋が2代目です。)そして、**大臣が10数名**(今でいう外務大臣防衛大臣などです。)も出ているんです!!　でもって、このことの何がすごいことか、というと、79人の若者と言いましたが、別に**優秀な人たちを集めたわけではない**ということです!!　まさに地方のある一部にすんでいた若者なんです。そこには、農民の子どももいれば、武士の子どももいるし、商人の子どもなど、いろいろな人がいたんです。で、その辺りにいた一般的な子どもたちに、わずか1年と1ヶ月教えただけで、そういったすごい人たちが何人も育っていったんです。　では、その79人の若者たちは、その松下村塾で何を学び↗

何を身につけたのかというと…

『普段の生活で至誠を貫くこと』と**『自分だけの人生の役割に気づくこと』**だったそうです。

松陰先生は、79人の若者たちに、『何のために生まれてきたのか』『生まれてきた役割は何か』を考えさせたそうです。当然みんなと同じような若者ですから、『そんな、世の中に生まれてきた役割って言われても、私にはわかりません…』と言っていたそうです。そんな人たちに松陰先生は、こう言い続けたそうです。

『至誠を貫きなさい。"至誠"とは、普段やらなければならないことを、真剣に、本気で、誠意をもってやることだ。朝起きたら、玄関の掃除、鳥のエサやり、布団干し…。そういったことを真剣にやりなさい。絶対に手を抜かないで、欠かさずとにかく真剣にやりなさい。そうしたら、いつか自分のすべき役割が"必ず"わかってくる。』

そう、今のみんなにあてはめれば、〝あいさつを立ち止まって大きな声でする〟とか〝遅刻をせずに時間を守る〟とか、〝人の話を目を見て聞く〟〝そうじを丁寧に全力で集中してやる〟…　そういうことを誠心誠意やりなさいってことなんです。

その時にせなんことを、本気できちっとやっていたら、「あっ、自分の役割ってこういうことかなぁ…」ってところに気がつきます。だから**普段が大事**なんですね。松崎先生もよくこんな話をされてますよね！何でもそうですけど、**『普段、どれだけのことをやっているか、これが大事だ』**と松陰先生は教えたそうです。それを素直に、忠実に守った79人の若者が、今の日本をつくりあげるすごい人になったそうです。本当にそれだけです。みんなも、毎日の自分のすべきことを責任もってきちんとやってみてはどうですか？　自分がかわってきますよ！！

卒業生とその保護者の皆様へ…　1年間汚い字の"みがきあう。"におつきあいいただきありがとうございました。学校だよりというものが、このような形でいいのか、と思いながらも、勝手に私の思いをダラダラと書かせてもらいました。すみません。担任が通信を出していて、そちらで学校の様子はわかるだろうと、こんな形になってしまいました。3年生に対するメッセージは、PTA新聞、"燦たり"にのせてもらってますので、そちらをよんでいただければ…と思います。学校の活動にご協力ありがとうございました。(恵牧)